佐久市議会だより

ギカイの窓 臨時号

2017.03.01

平成28年度の議会報告・意見交換会の概要をお知らせします

皆さんとの意見交換を通じ、市政発展に結びつけて参ります。
多くの皆さんのご参加ありがとうございました。

平成28年11月４日より、市内５箇所で今年度の議会報告意見交換会を開催しました。

写真は、各会場で行われた車座による意見交換の様子です。

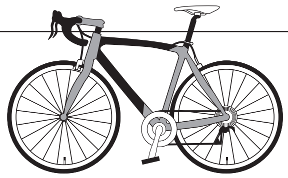
上：浅科地区、
右：佐久地区（創錬センター）

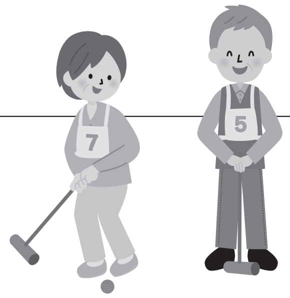
ご参加いただいた市民の皆さんからの意見･要望等

当日、それぞれのテーマについていただいたご意見･ご要望について、その一部を会場（地域）ごとに以下のとおり掲載させていただきます。詳細については、ホームページに掲載してまいります。

テーマ 「特色あるまちづくり」について

地区名	市民からの意見・要望
浅科地区	他の町の後追いをするのではなく、佐久市独自の観光資源によって他地域と連携を取りながら売り出して欲しい。
	市外からの企業誘致も大切だが、地元企業の発展を促進させることが重要なのではないか。地元で生まれ育った企業は外資とは違う。
	里山の素晴らしさを、佐久の子と都会の子の交流を通して認識を共有させるイベントを行ったらどうか。
	地域の人に優待チケット配ったらどうか。CMにもなるのではないか。 佐久総合運動公園でのイベントとタイアップしての利用も考えたら良い。
	観光客の中に中山道を歩いている人が多い。途中でバスに乗れるなど、中山道の散策をしやすい環境について市として対応を考えて欲しい。
	人が気軽に集まれる場所が欲しい。
	今の佐久市の自然の豊かさなど素晴らしいと感じている。 このことも佐久市の「特色あるまち」になるのではないか。自然環境など、まずは、市民が自覚することも大切だと考える。
	秋に行われるヒルクライムでは、参加者が佐久市周辺に宿泊することができず、遠方に宿泊したケースもある。 外部からの誘客を図る場合、ホテルなど受け入れ態勢ができていないので、そのような環境整備が必要と考える。
	市は地域ごとに縄張り意識があり、引っ張り合いをする気風がある様に感じる。その為か、行政は各地域に一律に同類のものを配置するだけの施策を行っている様に思える。
	合併で寄り集まっただけで、協力して相乗効果を高め合う気風が感じられない。行政は、各地域の強みや課題を引き出し、特色を生かした地域政策を行ってほしい。
	佐久の各地で行われている、小規模だが特徴や歴史があり意義のある祭りや催しを洗い出し、それら全体を関連付けてアピールしらたどうか。
	まちづくりについて、各々でやっていたらまとまらないのではないか。「街づくり協議会」を組織し、その上で支所に予算等の権限も持たせ、浅科地区の活性化を考えてほしい。組織の再編も必要ではないか。
佐久地区（創錬センター）	北陸新幹線が開業し利便性がよくなった。佐久平駅前に文化施設が必要。それが特色を作り出す。
	臼田の健康サポートセンターは、臼田地域のためだけのものではないので、全市的に有効活用することが、周辺地域の活性化につながる。
	情報公開をもっと行い市民、行政、議会が情報の共有をしたほうが良い。
	総合運動公園を活用した誘客計画を作る。佐久長聖高等学校の駅伝部は有名なので活用できないか。



地区名	市民からの意見・要望
佐久地区（創錬センター）	地域ごとに支え合う30人から50人くらいのボランティアグループ組織を立ち上げたらどうか。 野沢会館にある市民活動サポートセンター等を活用してボランティアグループの指導者（ファシリテーター）を育成し、それを行政がサポートして、官民一体となって特色あるまちづくりをしていくことが重要だ。
	ヘルシーテラス佐久南について、健康と食を関連付け五感を満たす施設として、虚空蔵山との関連を考えた施設にしてほしい。周辺の環境（国道沿いの植栽などの)維持には行政にも積極的に担っていただきたい。
	地域コミュニティの維持には、どんど焼きや地区運動会、文化事業の継承、復活も大切ではないか。地域のリーダーの養成や他地区の活動を知らせることが出来ないか。ソフト面での人の結びつきをかつてのようにできないか。
臼田地区	県外や市外から移住して来た人達が活躍する場がほしい。地域協働において、何か関われるものが欲しい。人材バンクや基金などがあればよい。
	県外から移住したが、佐久市は公民館活動が活発であるが、 取り組みの内容にやや偏りがあると思う。
	佐久市はお酒がおいしい。お酒の魅力を生かしてほしい。
	市内観光施設の多くが観光バス等を駐める駐車場がないため、整備してほしい。
	公共施設の建設にあたっては、それぞれを単独で建設するのではなく、複合施設として建設し、財源の節約を図ってほしい。
	佐久総合運動公園野球場の整備については、やるための野球場利用だけでなく、子どもたちがいい試合を観られる場になって欲しい。いい試合をみれば、刺激、意欲につながる。
	臼田地区は、都会からの移住を促すためにも、佐久総合病院本院を中心とした「医療のまち」をめざすべきだと思う。
望月地区	小学校の跡地に企業誘致できないか。すでにブランド化されている野菜づくりには人手が必要であるので、雇用につながると思う。農業希望の若い人が移住してくれれば、住宅確保について空き家対策につながるのではないか。
	地域おこし協力隊に応募しました。若い人を雇用できるような、農業の企業化について、農協や農業大学と連携して事業を起こせないか。
	佐久市は目玉となるような観光名所は無いが、貞祥寺やぴんころ地蔵、春日渓谷等をつなぎ合わせて、PRに努めて欲しい。
佐久地区（野沢会館）	これからは箱物よりもソフト事業に力を入れてほしい。
	空き店舗を活用し、子どもや子育て中の人、高齢者が集まれるような場所があると良いと思う。また、高齢者のシェアハウス的なものもあれば良い。
	佐久市には「松本山雅」のようなスポーツ団体がない。プロチームができるとそこに人が集まり、街が活性化する。スポーツが一番街を活性化させることができるのではないか。
	佐久市は健康長寿のまちなので、佐久市でも盛んなマレットゴルフ大会などを誘致したら佐久市をアピールできて良いと思う。 
	「君の名は。」や「真田丸」にもっとうまく乗る方が良いのでは。
	佐久市は「星のまち」をうたっているが、移住者や星を見に来た人にとっては、ただ寝転がって星を見るだけで感動する。観望会も良いが、そういう場所があれば良いと思う。佐久市に住んでいる人は佐久市の良さを感じていないから、アピール不足なのではないか。

テーマ　「どう活かす空き家、耕作放棄地」について

地区名	市民からの意見・要望
浅科地区	空き家バンクの運営について、遊休農地をセットにして募集をかけたらどうか。
	樋橋地区に、地場産農産物の直売所を作れないか。また、地場産農作物の朝市を開催したらどうか。
	通学路に面していて崩れそうな空き家については、強制執行による取り壊しや応急措置をして、所有者から代金を徴収してはどうか。
臼田地区	東京から移住したが、もし借りられるなら畑づくりもしてみたい。 行政が需要と供給の橋渡しをしてはどうか。
望月地区	移住定住対策として空き家バンクの登録増加に力を入れているようだが、その前提として貸すに値する物件となるよう手直しをしなくてはならないため、費用負担などその事情も考慮して欲しい。

テーマ　「健康第一！教えて我が家の医療費抑制策」について

地区名	市民からの意見・要望
佐久地区（創錬センター）	無料での予防接種対象を広げることによって、病気の重篤化を防げて結果として医療費全体を引き下げられないか。
望月地区	医療費対策として保健補導員と連携して予防事業に力を入れたらどうか。 社会福祉協議会の事業で一人暮らしの老人世帯に、年に数回100円弁当を配達しているが、栄養のバランスも考えられており、また見守りも兼ねられ大変良いことだと思う、NPO法人で事業化できれば、雇用にもつながると思う。
	国保税上げの背景には、かかりつけ医と佐久病院（紹介病院）の連携が進んでおらず、機能していないのではないか。
佐久地区（野沢会館）	医療費の抑制は、食生活改善の取り組みから始めるべきだと考えることから、その様な事業を行ったらどうか。
	保健補導員の活動で学んだことを、地域に広げていく活動が必要ではないか。
	特定健診の年齢を下げるなど、若いうちから健康に留意するよう意識付けしていく必要があるのではないか。
	医療費を抑えるためには、健康寿命を長くすることが必要。年を取ってからでは医療費がかかってくるので、若いうちから「予防」に力を入れることが大事だと思う。

テーマ　安心して暮らせる「高齢化社会のための支援策」について

地区名	市民からの意見・要望
浅科地区	高齢者世帯で何かあった時、どこに連絡すべきかの情報網を作れないか。
佐久地区（創錬センター）	三世帯住宅に対する支援が必要と考える。
	運転免許返納を、将来考えているが、返納後の移動手段について不安がある。交通体系については早急に考えるべきではないか。
臼田地区	在宅医療を支えるためにも、介護職の待遇を改善し、介護を充実するべき。そうでなければ、ますます介護離職は増えてしまう。
	健康寿命をいかに伸ばすかに重点をおくべきではないか。

平成28年度「議会報告・意見交換会」の概要

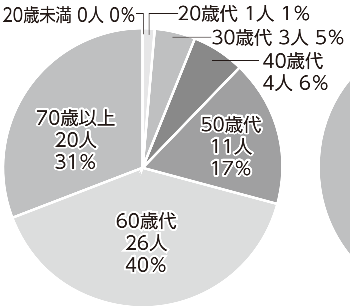
市民向けの意見交換５会場における参加者は、佐久地区38名、臼田地区16名、浅科地区28名、望月地区15名の合計97名で、１会場あたりの平均参加者は、19名でした。

当日行ったアンケートでは、開催方法については、「車座形式はとてもよかった」、「休日、昼間の開催は続けてほしい」と改善点を評価するご意見、「人を集める工夫が必要」、「委員会報告の内容は少なく感じた」といったご意見をいただきました。また、意見交換については、限られた時間の中で行われることからテーマの内容やテーマ設定についての研究や、「困っていることをなんでも話せる会にしてほしい」とのご意見がありました。

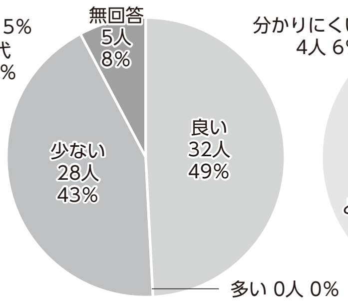
「住民の意見を反映した議会運営を希望します」といった意見もあり、市民の皆さんとの意見交換の場の必要性を再認識し、今後の課題について取り組み、充実した意見交換会となるよう工夫してまいります。

ご参加いただいた市民の皆さんからのアンケート結果

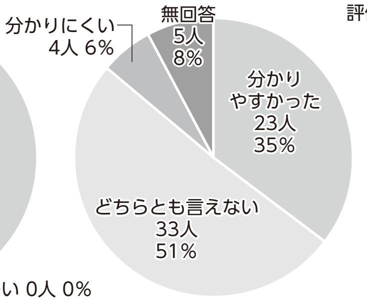
年代別アンケート回答者数



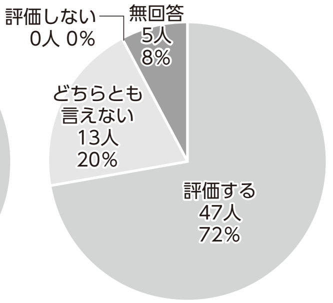
資料に対する評価



説明に対する評価



実施に対する評価



最近の状況：平成25年269名（７会場）、平成26年185名（７会場）、平成27年110名（４会場）

3月9日 議場コンサート

3月９日の「佐久市民の日」にあわせて、昨年、大好評だった議場コンサートを、今年も開催します。

入場無料となっており、事前申込みも不要です。皆さんお誘いのうえ、迫力あるコンサートをお楽しみください。

日　時　3月９日㊍ 午後１時30分～

場　所　佐久市議会議場

内　容　①小林議長による議会案内
　午後１時30分～
②議場コンサート
　午後２時～（概ね１時間）

出演者　フルート：　矢野郁子さん
ヴァイオリン：杉原桐子さん
ピアノ：　桜井未来さん
ドラム：　櫻井清隆さん

曲　目　真田丸メインテーマ
銀河鉄道999　など

昨年、大盛況だった草笛コンサートの様子

Saku Kids メディア Safetyの皆さんと意見交換しました

スマートフォンやゲーム機依存から子どもたちを守り、ネット被害はどう防止したらいいのか。10月16日に、佐久市の教育関係者らでつくる「Saku Kids メディア Safety」の皆さんと総務文教委員で意見交換をしました。
スマートフォンのアプリや動画で子育てをしている保護者や、ゲームのやり過ぎによりコミュニケーションがうまくとれない子どもの現状について知ることができました。これに対し、スマートフォンやゲーム等と、うまく付き合っていく方法について意見交換をしました。

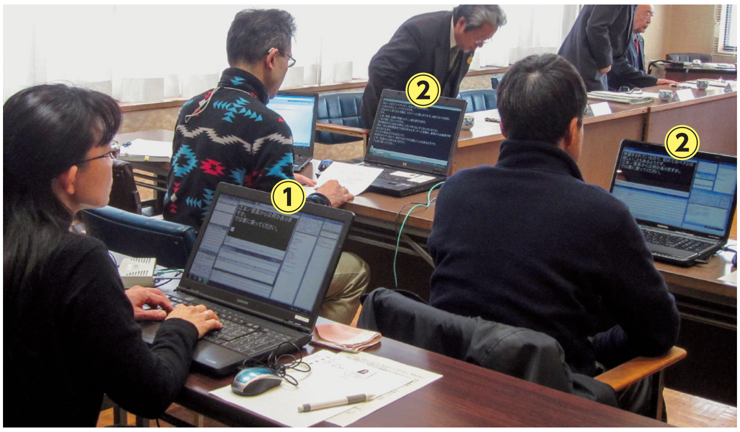
その後、第１回Saku子どもメディアサミットが開催され、市内の小中学生同士がどのようにメディアと付き合っていくか意見を交わし、総務文教委員はその様子を傍聴しました。

ろう者や中途失聴の方と手話について意見交換しました

～「手話」は、「日本語」や「英語」と同じ言語です～

ろうあ団体から「佐久市で手話言語条例を制定してほしい」との要望をきっかけに、社会委員会では手話や「聞こえない」ということについて、関係団体と意見交換を行い理解を深めました。
「手話」で会話する人は、視覚を中心として情報を得ることから、人を呼ぶ時、テーブルをたたいて気づかせたり、人を指差して意思を伝えていますが、「聞こえない」というのは、外見からは察することが出来ないため、その様な動作がマナー違反と思われ、日常ではなかなか理解されないとのことでした。また、以前はろう学校でも手話を禁止されており、手話が使えるようになるまでのつらい経験も紹介されました。

社会委員会では、佐久市においても条例制定を見据えて、今後も調査研究をしてまいります。



パソコンを使った要約筆記

発言内容を要約筆記により①のパソコンから入力。
入力内容が②のパソコンに映し出される

手話によるあいさつ

発行／佐久市議会　〒385-8501 長野県佐久市中込3056番地　TEL.0267(62)3495(直通)　FAX.0267(62)7910(直通)
編集／議会報告・意見交換会運営委員会、広報広聴特別委員会

佐久市議会ホームページQRコード

VEGETABLE OIL INK　資源保護のため植物油インキ／再生紙を使用しています。